

研究ノート

動画作成を通じた異文化理解と語学教育の効果 —ユーチューブ活用の実践—

**YouTube Video Creation as a Tool for Intercultural and
Language Education: Insights from University Workshops**

チェンドム・アンドレア
Andrea CSENDOM

岡田昭人
OKADA Akito

要旨

本研究は、デジタルメディア、特にユーチューブを活用した動画作成タスクが、大学レベルの語学教育および異文化理解教育にどのように貢献できるかを検証することを目的としている。2024 年 8 月に立命館大学で開催された「国際教育夏季研究大会」において実施されたワークショップでは、参加者が 1 分間の英語動画を作成し、その過程を通じて、デジタルメディアを活用した教育手法が学生の異文化間コミュニケーション能力および英語運用能力に与える影響について調査を行った。結果として、ソーシャルメディア向けの動画作成タスクが、特に会話力や即答力の向上、グループ内での英語使用に対する心理的抵抗の軽減に効果をもたらすことが確認された。また、今後の展望として、留学生を含む国際的なセミナーやグループワークなど、共通言語として英語を使用する形式が有効であると提案されている。このアプローチは、英語教育だけでなく、国際日本語教育や他の言語教育分野にも応用可能であり、教育現場におけるさらなる発展が期待される。

Abstract

This study examines how digital media, particularly YouTube video creation



tasks, can contribute to language education and intercultural understanding at the university level. The study reports on a workshop conducted during the Summer Institute of International Education in August 2024 at Ritsumeikan University, where university educators participated in creating one-minute English videos. The goal was to investigate the effectiveness of this approach in enhancing students' intercultural communication skills and English proficiency. The results demonstrated that video creation tasks designed for social media significantly improved speaking skills, quick response abilities, and reduced hesitation in using English in group contexts. Furthermore, for future applications, it is proposed that international seminars or groups, including exchange students, be formed where English is used as the common language. This approach is not only applicable to English education but also to Japanese language education and other language teaching disciplines, offering significant potential for further development in educational contexts.

キーワード：デジタルメディア活用、異文化理解、語学教育、動画作成
タスク、ユーチューブ教育

Keywords: Digital Media Utilization, Intercultural Understanding, Language
Education, Video Creation Task, YouTube-Based Education

1 はじめに

グローバル化が急速に進展する現代社会において、語学教育および異文化理解教育は、国際社会における相互理解とコミュニケーション能力の向上を目指す重要な学問領域として位置づけられている。特に、異なる文化的背景や価値観を持つ人々との意思疎通を円滑に図るためには、単なる言語能力の向上にとどまらず、異文化理解や適応力を含む柔軟なコミュニケーションスキルの習得が不可欠である。こうした要請を受け、語学教育の枠組みは従来の教室内活動やテキストベースの学習に限定されず、デジタルメディアを積極的に活用することが重要な要素として浮上している。

特に、ユーチューブのような動画共有プラットフォームは、現代の学生にとって非常に身近なツールであり、その教育的可能性は注目に値す

る。動画メディアは視覚的および聴覚的な刺激を提供することで、従来のテキスト中心の教育では実現が困難であった効果的な学習体験を提供する可能性がある。さらに、学生が自ら動画を作成し、発信するプロセスを通じて、言語能力や異文化理解力を実践的に磨く機会が与えられることから、デジタルメディアを活用した教育手法は、語学力と異文化コミュニケーション能力の向上に大きく貢献する革新的なアプローチとして注目されている。

本論文では、2024 年 8 月 8 日に立命館大学で開催された「国際教育夏季研究大会 (SIIEJ)」¹⁾において実施されたワークショップ「ユーチューブを活用した国際教育推進プロジェクト」を基に、ユーチューブを活用したデジタルメディアが大学レベルの語学教育および異文化理解教育に与える影響を検討する。本研究では、特に参加者が 1 分間の英語動画を作成するというタスクを通じて、どのように語学力および異文化コミュニケーションスキルが向上したかを実証的に分析する。また、2024 年 8 月 27 日にハンガリーで開催された「第 37 回日本語教育連絡会議」におけるチェンドムの発表「近世日本文化の異文化翻訳と映像メディアに関する報告」を参考に、ユーチューブを活用した手法が日本の英語教育のみならず、他の言語教育分野（例えば海外の日本語教育）にどのように応用できるかについても検討を行った。

本研究は、デジタルメディアを活用した教育手法が従来の学習アプローチにどのような革新をもたらし得るかを明らかにし、学生の異文化理解および語学力向上に与える可能性を示す。さらに、ユーチューブをはじめとするデジタルメディアが教育現場において果たすべき役割に関する実証的な知見を提供し、今後の教育現場でのさらなる応用と発展を期待する。

¹⁾ 国際教育夏季研究大会 (SIIEJ, Summer Institute on International Education, Japan) は、国際教育の専門家や教職員を対象とした年次カンファレンスで、2024 年のテーマは「国際教育が牽引するダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン」であった。2024 年 8 月 7 日から 8 日にかけて、立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催された。この大会は、国際化に関連する業務を担う教職員が大学間の枠を越えて研究や意見交換を行う場として、2018 年から毎年開催されており、国際教育分野の発展に寄与している。

2 本研究の背景と位置付け

デジタルメディアの発展に伴い、教育現場において新たなツールを活用した学習手法の導入が積極的に進められている。その中でも、ユーチューブは動画共有プラットフォームとして注目され、語学教育や異文化理解教育において重要な教育手段として広く認識されている。近年の研究では、ユーチューブを活用した教育が、従来のテキストベースの学習方法と比較して、学習者の理解度や記憶の定着率を向上させる効果があることが示されている。特に、視覚的および聴覚的な刺激を同時に提供するユーチューブは、学習者のモチベーションを高め、エンゲージメントを促進するツールとして有効である。以下では、ユーチューブやSNSを活用した教育に関する先行研究を3つの分野に分けて紹介する。

SNSとユーチューブを活用した教育効果に関する研究

ユーチューブを活用した教育に関する先行研究では、視聴覚素材が学習プロセスを効果的に支援することが確認されている。Berk (2009) は、ユーチューブが学生の学習への関心を引きつけ、積極的な態度を形成する重要なツールであることを示している。また、Gbolahan (2017) は、ユーチューブが学習者に多様な学習方法を提供し、知識の定着を促進する効果があると指摘している。さらに、Yang and Yeh (2021) は、ユーチューブを用いた動画作成タスクが、異文化コミュニケーション能力の向上に大きく寄与することを確認しており、この方法は特にグローバルな言語教育において有効であるとしている。また、阿部ら (2017) の研究では、大学生を対象にSNSの利用状況を調査し、SNSが英語学習において十分に活用されていない理由を明らかにしつつ、効果的な利用方法について議論している。村端 (2021) は、日本人英語学習者がSNS上で褒め行為を通じて独自のコミュニケーション戦略を用いていることを示しており、これがSNSの活用による異文化間の言語交流の一例となっている。

トランスランゲージングアプローチとSNSの活用

Turnbull (2018) の研究は、日本の英語教育におけるトランスランゲージングアプローチの可能性を探り、学生が母語である日本語を利用しな

がら英語を学ぶことで、自然な言語習得が促進される可能性を示している。これは、英語学習における日本語の役割を再評価するものであり、学習の柔軟性を高めるアプローチである。

動画作成のメリット

動画作成タスクは、語学教育および異文化理解において実践的な学習手段として非常に効果的であると評価されている。Combe and Codreanu (2016) は、ビデオブログ (vlog) を活用することで、学習者が他者とコミュニケーションを取りながら語学力を向上させることができると述べており、自己表現を通じた語学力の向上が期待される。また、Anas (2019) は、学生が自ら動画を作成する過程で、語彙力やテクノロジーに関するスキルを高めることができることを示している。このような動画作成タスクは、実社会での言語運用能力の向上にも寄与する。

さらに、福島 (2002) は、日本語のプロモーションビデオを制作するプロジェクトを通じて、学生が実践的な学習経験を得ることができ、言語能力の向上が期待できることを報告している。また、Gremmler & Wielander (2017) は、ビデオ制作タスクが学生の協働学習を促進し、実践的な言語運用能力の発展に寄与することを確認している。Zahroh (2021) の研究では、ユーチューブを使用したタスクが特に遠隔教育において有効であり、学習者の課題理解を向上させることが示されている。ユーチューブは教育ビデオを通じて学習成果を最大化するための効果的なプラットフォームであり、遠隔教育の文脈でもそのメリットが発揮されるとされる。

3 本研究の課題と目的

本研究の課題は、先行研究を踏まえ、ユーチューブを活用した動画作成タスクが日本の大学における語学教育および異文化理解教育にどのように寄与するかを実証的に明らかにし、その効果的な教育手法を開発することにある。従来の日本の語学教育では、文法や読解に重点が置かれ、これらの分野で学生の言語能力は発達しているものの、会話能力や即答力、実践的なコミュニケーションスキルの向上が十分に果たされていないという課題がある。また、異文化理解教育においても座学中心の形式

が多く、学生が実際に異文化間のコミュニケーションを経験する機会が限られているため、実践的な異文化理解が不足している現状がある。

本研究では、デジタルメディア、特にユーチューブを活用し、学生が自身の考えや学んだ内容を動画という形で表現し発信するプロセスを通じて、以下の3つの目標を達成することを目指す。

実践的な言語運用能力の向上

学生が動画作成を通じて、自身の発言を録音・編集・視聴・評価することで、言語の流暢さや発音、表現力の改善が期待される。特に、学生が自身の動画をグループ内で共有し、互いにフィードバックを行うことで、会話能力や即答力の向上が促進される。動画作成というタスクは、従来の教室内での対話練習とは異なり、実践的かつ現実的な文脈での言語使用を求めるため、学生が自発的に英語（または他の対象言語）を使う機会を増やし、言語運用に対する心理的抵抗感を軽減することを目指す。

異文化理解と異文化コミュニケーション能力の促進

動画作成のテーマを異文化理解に関する内容に設定することで、学生は異なる文化や価値観を調査し、自分の言葉で説明・紹介するプロセスを通じて、異文化に対する理解を深める。さらに、動画を他者と共有し、ディスカッションを行うことで、異文化間でのコミュニケーション能力が実践的に向上することが期待される。これにより、学生は自身の文化と異文化の違いを理解し、柔軟なコミュニケーションスキルを身につけることができる。

教育モデルの開発と効果検証

本研究のもう一つの目的は、動画作成タスクを語学教育および異文化理解教育に効果的に導入できる教育モデルを構築することである。このモデルは、デジタルメディアを活用し、学生が能動的に学ぶ環境を提供することで、従来の受動的な学習方法では得られなかった学習成果を引き出すことを目指している。具体的には、動画作成を中心としたカリキュラムを開発し、そのカリキュラムが学生の語学力および異文化理解力に

どのような影響を与えるかを実証的に検証する。また、教育現場における導入の可能性や実用性についても検討し、教師がこのモデルをどのように取り入れることができるかを示すガイドラインを策定する。

これらの目標を達成することで、デジタルメディアを活用した革新的な教育手法を実現し、学生の語学力および異文化理解能力の向上に貢献することを目指す。

4. ユーチューブを活用した教育方法の提案

4.1 研究対象とデザイン

本研究は、2024 年 8 月 8 日に立命館大学で開催された「国際教育夏季研究大会 (SHIEJ)」において、英語教育や異文化理解に関する知識を持つ大学教員を対象に実施されたワークショップを基にしている。本ワークショップの目的は、ユーチューブを活用した新たな教育手法の有効性を検証し、参加者がデジタルメディアを活用した実践的な異文化理解教育のアプローチを習得することである。

ワークショップでは、参加者を 2～3 名の小グループに分け、各グループがユーチューブを活用した動画作成タスクに取り組んだ。具体的には、異文化理解や国際教育をテーマに英語で 1 分以内の動画を作成することが求められた。ワークショップの最終目標は、参加者が動画作成プロセスを通じてデジタルメディアを活用した教育手法を理解し、その手法が実際の教育現場でどのように応用可能であるかを探ることである。

4.2 実施手順

ステップ 1: テーマの決定とブレインストーミング

動画作成作業は、グループ内でのブレインストーミングから開始された。各グループは、推奨されたトピック（例：日本と他国の国際教育の違い、国際教育のメリットとデメリット、成功している国際教育の戦略）に基づき、動画のテーマを決定した。

ブレインストーミング段階では、各グループで異文化間の視点を共有し、最も効果的にメッセージを伝える方法を討議した。その後、ワークシートを用いて具体的なアイデアの整理を行った。

ステップ 2: 台本作成と素材準備

ワークシートをもとに、各グループは動画の台本を作成し、動画制作に必要なビジュアル素材やデータを収集した。参加者は、視聴者に対してどのようにメッセージを視覚的・聴覚的に効果的に伝えるかを検討し、特に異文化間の違いを明確に示すための表現方法を選定した。たとえば、動画に使用するイメージ、グラフ、統計データなどが各グループで準備され、台本の内容に適した形で組み込まれた。

ステップ 3: 動画撮影

次に、各グループは視聴者を意識した動画撮影に取り組んだ。異文化理解や国際教育をテーマにしているため、動画の内容が異なる文化的背景を持つ視聴者に配慮したものであり、簡潔で分かりやすい英語表現が求められた。さらに、異文化間の共通点や相違点を示すことで、視聴者が異文化理解を深めやすい構成とした。各グループは、誤解を避けるために慎重に表現を選び、国際的な視聴者に適した動画作成に注力した。

ステップ 4: 動画編集

動画の撮影と編集は、参加者がスマートフォンやタブレットを使用しに行い、Canvaなどの簡便な編集ツールを活用した。この段階では高度な編集スキルは必要とされず、誰でも手軽に利用できるツールを利用し、短時間で高品質な動画を制作することが目標とされた。

ステップ 5: フィードバックと再編集

作成された動画は、ワークショップ内で発表され、他のグループからフィードバックを受けた。参加者は、このフィードバックを基に動画を再編集し、最終的な完成版を作成した。このプロセスは、教育現場での学生による動画作成およびフィードバックの手法を模倣しており、教員がこの教育手法をどのように指導に取り入れるかを実践的に学ぶ機会となった。

4.3 テンプレートと教育手法の効率化

本ワークショップでは、動画作成の進行を効率化するために、事前にテンプレート（付録参照）が提供された。このテンプレートには、動画制作の段階的な構成および各ステップで考慮すべきポイントが含まれており、参加者はそれを基に作業を進めた。このテンプレートは、今後教員が学生指導の際に利用できるよう設計されており、特に異文化理解教育における効果的な教材としての応用が期待されている。

5 動画作成による教育効果の分析と改善点

5.1 異文化間コミュニケーション能力の向上

ワークショップに参加した大学教員は、ユーチューブを活用した動画作成を通じて、大学のゼミや講義で応用可能な異文化間コミュニケーション能力と英語力の向上に寄与する新しい教育スタイルを体験した。特に、グローバルな視聴者に向けて自らの研究分野を簡潔かつ効果的に英語で発信するというタスクは、研究成果を広く共有する上で重要な技能であり、異なる文化的背景を持つ視聴者に対しても明確で有益な情報を伝えるための高度なスキルが求められるものであった。参加者は、英語でのプレゼンテーション能力を強化するのみならず、異文化の視点に配慮しながら効果的なメッセージ伝達の手法を学び、その結果、異文化理解を深めた上でのコミュニケーション能力を向上させた。このような実践的な体験は、今後の教育活動にも応用可能であり、教員自身のスキル強化にも繋がるものである。なお、英語で撮影した動画に日本語字幕をつけることで、異文化間コミュニケーションの理解がさらに深まり、より多くの視聴者に情報を届けることを本来目指していたが、今回の実施例では時間的および技術的な制約により実現できなかった。

5.2 問題解決能力の向上

動画制作プロセスにおいて、参加者は技術的な問題や時間的な制約という実践的な課題に直面し、それらを効率的に解決する能力を培うことができた。例えば、限られた制作時間内で質の高い動画をどのように作成するか、また技術的なトラブル（編集ソフトの操作や映像の不具合など）にどのように対処するかといった複数の課題が発生した。これらの

問題に対して、参加者は創造的かつ柔軟な解決策を模索しながら対応し、結果として実践的な問題解決能力を向上させた。

特に、動画編集ソフトの基本操作を独自に習得するという課題に取り組んだ参加者は、映像を効果的に編集するための具体的な手法を考案し、実践することで教育現場においても応用可能な技術的スキルを獲得した。この経験は、教員が実際に学生に対して問題解決能力を指導する際にも有効であり、教育手法の一環としても実践的な価値を持つものであると示唆される。

5.3 エンゲージメントスキルと効率性の向上

参加者は、視聴者の関心を引きつけるストーリーテリング技術や、効果的なビジュアルデザインを用いたコンテンツ作成スキルを習得した。これにより、研究内容を視聴者にとって魅力的かつ効果的に伝えるための手法を体験的に学ぶことができた。特に、コンテンツの流れを意識し、視覚的要素を工夫することで、参加者は視聴者に強い印象を与える動画作成の技術を磨いた。このスキルは、今後の研究発表や教育活動において、より効果的に情報を発信するための重要な能力となる。

さらに、テンプレートの使用により、参加者はオリジナリティを保ちながらも、一定の構造や共通のフレームワークに基づいた動画作成が可能であることを確認した。これにより、動画の構成や時間管理を効率的に行うスキルが向上し、短時間で質の高いコンテンツを作成する能力が、大学のゼミや講義においても有効に应用できることが実証された。テンプレートの活用は、特に教育現場において、時間的制約の中で質を維持しつつ、効率的に成果を上げるための手法として重要であることが示された。

5.4. 課題と改善点

過去に東京外国語大学で大学生向けに実施された類似のゼミでは、学生が迅速かつ正確にビデオ制作を完了し、課題を効率的に達成した。しかし、今回の大学教員を対象としたワークショップでは、技術的スキルやデジタルメディアに関する経験の差異により、編集作業の完成度にグループ間で顕著なばらつきが見られた。特に、編集技術に対する習熟度

が低い参加者にとっては、限られた時間内で質の高い動画を制作することが難しく、さらに動画の所要時間（1 分以内）を遵守することが困難であった。

この結果から、今後の教員向けワークショップにおいては、編集作業に関するより高度かつ具体的な指導の必要性、および技術的なサポートの強化が浮き彫りとなった。ワークショップ内での技術支援が充実することで、参加者である教員はユーチューブを活用した教育方法をより自信を持って実践できるようになると期待される。また、このプロセスを通じて得られた知見は、今後のワークショップや教育プログラムの設計において、有効なフィードバックとして活用されることが見込まれる。

特に字幕の導入は、今後の重要な課題である。英語の動画には日本語、日本語の動画には英語といった字幕を追加することで、より多くの視聴者に情報を伝えるだけでなく、語学学習の促進も期待できる。さらに、異なる言語で表現することにより、同じ内容が異なる文化的な視点から理解される可能性が高まり、学生の異文化理解能力の向上にも大きく貢献すると考えられる。これらの点を今後の重要な課題として取り組むべきである。

6 今後の応用と展開

今回のプロジェクトでは、参加者がグループ内で日本語を使用しつつ、英語でコミュニケーションを図る形式を採用した。このアプローチは、日本の大学における典型的な英語教育のスタイルであり、学生が英語を「学ぶ」環境としては非常に有効であった。しかし、今後の応用において、より実践的かつインタラクティブな異文化コミュニケーションスキルを養成するためには、留学生を含む国際的なグループ編成を導入し、多様な文化的背景を持つ学生が英語を共通言語として使用する環境を整えることが求められる。

この新しいアプローチにより、学生は教室内の「学習」に留まらず、実際に多文化社会で求められるコミュニケーションスキルを実践的に体験する機会が増加する。異なる文化的背景を持つ学生同士が共通のプロジェクトに取り組むことで、語学スキルの向上のみならず、異文化に対する理解や共感、そしてグローバルな視点での問題解決能力を自然に習

得することが期待される。

さらに、この形式では、学生が英語を使用することに対する心理的な抵抗感が徐々に減少し、より自然に英語を用いて他者とコミュニケーションを図ることができるようになる。特に、留学生との協働を通じて、英語が単なる「学問」としてではなく、実社会で機能する生きたコミュニケーションツールであることを体感する機会が提供される。学生は英語を「学ぶ」対象としてではなく、日常的なコミュニケーション手段として捉え、英語使用への心理的障壁を克服することが可能になる。

さらに、デジタルメディアの活用は今後も重要な役割を果たすだろう。ユーチューブなどのプラットフォームは、学生が制作したコンテンツを世界中に発信するための有効な手段であり、グローバルな視聴者からフィードバックを得ることで多様な視点からの学びが可能となる。特に、国際的な視点を持つ教育コンテンツの作成・発信を通じて、学生は他国の文化や教育システムに対する理解を深めるだけでなく、自らの文化や価値観を他者に伝える能力をも高めることができる。

今後の展開として、このプロジェクトで得られた教育手法は、英語教育に限らず、日本語教育や他の言語教育にも応用可能である²⁾。例えば、日本語を学ぶ留学生が同様のプロジェクトに参加することで、彼らも日本語や日本文化を発信する能力を向上させることができ、学習と発信を同時に促進できる。このアプローチにより、言語学習と異文化理解が相互に強化され、教育の国際化が一層進展すると考えられる。さらに、留学生が英語字幕だけでなく、自身の母国語で字幕を作成することで、プロジェクトの内容が多くの異なる文化圏に発信され、異文化間の理解がより広範に深まる可能性が高まる。

最終的には、デジタルメディアを活用した教育手法のさらなる発展と共に、グローバルな視点を持った教育環境の構築が今後の教育改革における重要な課題となるだろう。異文化交流やデジタルメディアの有効活

²⁾ 本件については、チェンドムが2024年8月27日にハンガリーで開催された「第37回日本語教育連絡会議」にて発表した「近世日本文化の異文化翻訳と映像メディアに関する報告」においても言及されている。この発表では、本校で取り上げた動画作成手法が国際日本語教育にどのように応用できるかが議論され、ヨーロッパで日本語を教える講師からも実施や協力に関する具体的な相談が寄せられた。

用を通じて、多様な背景を持つ学生同士が共に学び、成長する教育の場が整備されることが期待される。

7 結論

本研究は、ユーチューブを活用したデジタルメディアが語学教育および異文化理解教育に与える影響を検討し、動画作成という能動的な学習アプローチが、学生の言語能力と異文化理解を効果的に向上させる可能性を示した。従来の受動的な学習方法とは異なり、動画作成を通じた実践的な教育モデルは、学習者が自らのアイデアや研究成果を英語で発信し、異文化間コミュニケーション能力を高めるための有効な手段であることが確認された。

デジタルメディアの活用は、視覚的・聴覚的な刺激により学習効率を高めるだけでなく、自己表現や他者との相互作用を促進し、より深い学びの機会を提供する。学生はこのプロセスを通じて、言語能力だけでなく、異文化理解や共感力を同時に育むことができた。

また、この教育手法は、英語教育に限らず、日本語教育や他の言語教育分野にも応用可能である。留学生が日本語を学ぶ際にも、同様の動画作成タスクを用いることで、実践的な言語運用能力と異文化理解を深めることができる。このアプローチは、言語スキルと異文化理解を同時に向上させる効果的な手法として期待される。

今後の課題としては、国際的なグループによる対話型学習の導入や、異なる文化的背景を持つ学生が共同で学ぶ環境の整備が挙げられる。これにより、学生はより実践的な異文化コミュニケーション能力を習得し、グローバルな視点から問題解決に取り組む力を養うことが期待される。

デジタルメディアを活用した教育手法のさらなる発展と普及が求められ、今後の教育現場において重要な役割を果たすことが期待される。本研究は、その第一歩として、ユーチューブを活用した教育方法が学習者の語学力と異文化理解を促進する可能性を示した。

参考文献

小泉有紀子 (2024). 「大学英語授業外学習「英語 3 文ジャーナル」の実践—SNS も活用した継続的なアウトプットのすすめ—」. 『語学教育研究論叢』, 44, 77-86.

村端啓介 (2021). 「SNS を媒体とした日本人英語学習者の褒め行為の様態に関する研究」. 『神戸英語教育学会紀要』, 36, 82.

石野未架 (2021). 「外国人指導助手 (ALT) の教師的役割を形成する英語教師の振る舞い—中学校のティームティーチング授業を対象とした会話分析研究」. 『日本英語教育学会紀要』, 25, 53-67.

阿部恵美佳, 植田麻実, 杉野俊子 (2017). 「大学生の英語学習における SNS 利用状況とその利用促進への一考察」. 『語学教育研究論叢』, 34, 161-175. 東京: 大東文化大学語学教育研究所.

Abbas, N. F., & Qassim, T. A. (2020). Investigating the Effectiveness of YouTube as a Learning Tool among EFL Students at Baghdad University. Arab World English Journal (AWEJ) Special Issue on CALL, (6), 344–356.

Almurashi, W. A. (2016). The Effective Use of YouTube Videos for Teaching the English Language in Classrooms as Supplementary Material at Taibah University in Alula. International Journal of English Language and Linguistics Research, 4(3), 32-47.

Anas, H. (2019). Behind the scene of student-created video: Meaning-making process and language learning outcomes. International Journal of Emerging Technologies in Learning (iJET), 14(12), 250-261.

Berk, R. A. (2009). Multimedia Teaching with Video Clips: TV, Movies, YouTube, and MtvU in the College Classroom. International Journal of Technology in

Teaching and Learning, 5(1), 1–21.

Bloom, K., & Johnston, K. (2010). Digging into YouTube Videos: Using Media Literacy and Participatory Culture to Promote Cross-Cultural Understanding. *Journal of Media Literacy Education*.

Bonk, C. J. (2008). YouTube Anchors and Enders: The Use of Shared Online Video Content as a Macro Context for Learning. American Educational Research Association (AERA) Annual Meeting: New York, NY.

Bonk, C. J. (2009). The World is Open: How Web Technology is Revolutionizing Education. San Francisco: Jossey-Bass.

Combe, C., & Codreanu, T. (2016). Vlogging: A new channel for language learning and intercultural exchanges.

DeWitt, D. et al. (2013). The Potential of YouTube for Teaching and Learning in the Performing Arts. *Social and Behavioral Sciences*, 103, 1118-1126.

Frdlingcr, B., & Owens, R. (2009). YouTube as a Learning Tool. *Journal of College Teaching and Learning*, 6(8), 1-15.

Fukushima, T. (2002). Promotional Video Production in a Foreign Language Course. *Foreign Language Annals*, 35, 349-355.

Gbolahan, O. (2017). An Evaluation of Educational Values of YouTube Videos for Academic Writing. *The African Journal of Information Systems*, 9(4), 232-261.

Gremler, C., & Wielander, E. (2017). The benefits of student-led video production in the language for business classroom. , 155-193.

Guo, P. J., Kim, J., & Rubin, R. (2014). How Video Production Affects Student

Engagement: An Empirical Study of MOOC Videos. ACM, 41-50.

Turnbull, B. (2018). Is there a potential for a translanguaging approach to English education in Japan? Perspectives of tertiary learners and teachers. *Language Teaching Research*, 22(1), 56-74.

Yang, Y. F., & Yeh, H. C. (2021). Enhancing language learners' intercultural communication skills through video exchange tasks. *Language Learning & Technology*, 25(2), 101-118.

Zahroh, M. (2021). Optimizing the Understanding of Practical Tasks in Distance Learning by Using YouTube Media. *INTELEKTUUM* 2(2):191-195.

付録

Video Project Planning Worksheet

Group Members:

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____

Video Project Overview

Objective of the Project: Create a **one-minute** video on _____
that is **easy to understand** and engaging for a **general, global audience**.

Project Guidelines

- **Video Length:** around 1 minutes (short YouTube video, TikTok video, Instagram video)
- **Language:** Preferably English (additional recordings in Japanese and

participants' native languages are acceptable, as are translations using DeepL, but be careful!)

- **Subtitles:** Japanese for English videos, English for Japanese videos.
- **Visual and Audio Materials:** Slides, images, graphics, music, etc.; be aware of copyright issues with online images, even those in the public domain!
- **Technical Requirements:** Use a smartphone or tablet for filming and editing. We recommend using Canva for editing your videos, which offers easy-to-use templates and tools to enhance your presentation.

1. Idea Brainstorming

Topic of interest:

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____

Main Theme of the Video:

1. _____

2. Storyboard (Framework of the Video)

1. Introduction:

- _____

2. Body:

- _____

3. Conclusion:

- _____

3. Script Outline

1. Introduction Script:

2. Body Script:

3. Conclusion Script:

Tags (20)

4. Visual and Audio Materials

- Types and Content of Visual Materials to be Used:

1. Photos: _____

2. Illustrations: _____

3. Audio: _____

4. Other: _____

5. Voice and Text Elements:

Using voice in your video is optional. **If you choose to include voice**, ensure that the speaker(s) has clear pronunciation and is comfortable speaking in the chosen language (English or Japanese). We recommend **including textual elements such as captions, short and brief explanations**, etc. If you are making a **voiceless video**, you need to explain your ideas through textual elements.

Feedback and Improvements

• Feedback Received: _____

• Points for Improvement: _____

<謝辞>

本研究は、JSPS 外特別研究員奨励費の支援を受け、「文化の翻訳」に関するプロジェクトの一環として実施されました。本プロジェクトは、江戸文化を紹介するユーチューブチャンネルの設立・運営から始まり、大学における課題へと発展した成果を大きく上げました。この取り組みを通じて、日本文化を多言語で国際的に発信する理解が深まり、文化間の架け橋として貢献することを期待しております。